

福島第一原子力発電所構内の線量状況について

2018年4月26日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

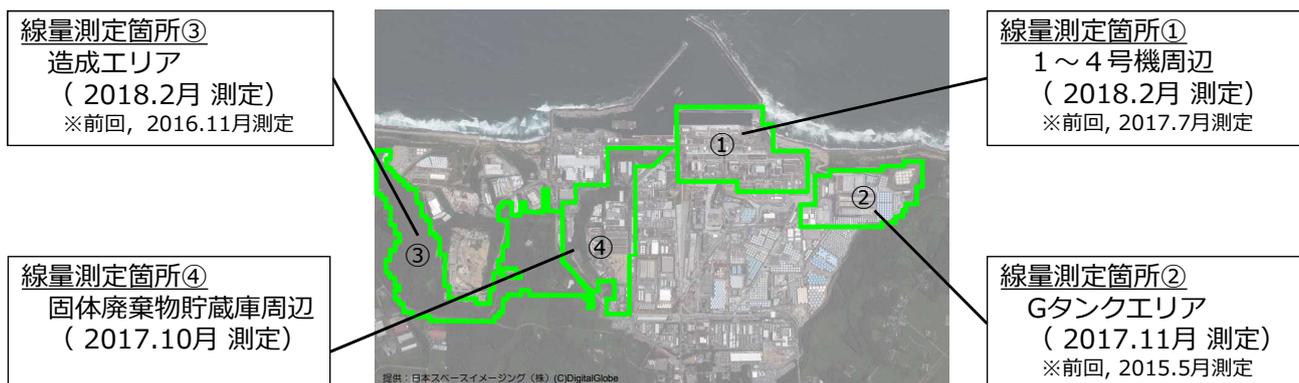
1. 概要

TEPCO

福島第一原子力発電所構内の作業環境を改善するために、多くの作業員が働くエリアから、順次、表土除去、天地返し、遮へい等による線量低減を進めるとともに、これまで線量低減を終えたエリアについても、定期的に線量状況を確認している。

今回（2017年度下半期）、以下のエリアについて線量状況を確認した。

- 1～4号機周辺（下図①）：定期測定
- Gタンクエリア（下図②）：定期測定
- 造成エリア（下図③）：定期測定
- 固体廃棄物貯蔵庫周辺（下図④）：定期測定



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

2. 1～4号機周辺[線量測定箇所①]の線量低減状況及び線量分布 – **TEPCO**

1～4号機周辺の平均線量率は、下表に示す工事等の進捗により、2.5m盤及び8.5m盤ともに年々低下の傾向を示している。

■ 平均線量率

< 8.5m盤 >

単位：[μSv/h]

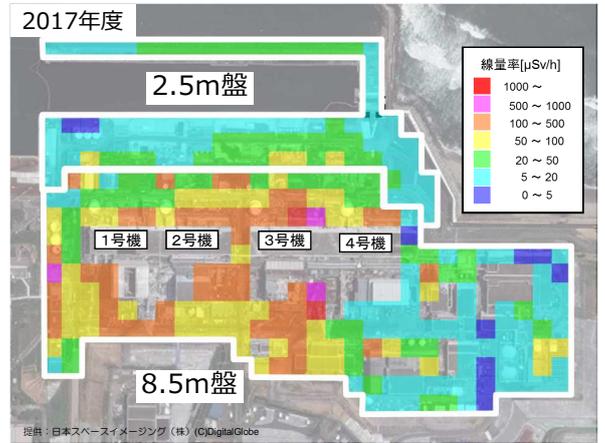
	胸元高さ	地表面 (コリメート)	線量低減に寄与した 主な工事
2014年度 (2015.2)	393	234	・ 1～4号機山側法面の除染、フェーシング
2015年度 (2015.12)	283	160	
2016年度 (2017.3)	205	97	・ 凍土壁工事や各工事のヤード整備に伴う瓦礫撤去等
2017年度 (2018.2)	140	61	・ 3号機原子炉建屋オペフロ遮へい設置及び燃料取扱設備の設置
			・ 4号機タービン建屋東側の環境整備

< 2.5m盤 >

単位：[μSv/h]

	胸元高さ	地表面 (コリメート)	線量低減の寄与した 主な工事
2014年度 (2015.2)	96	58	・ フェーシング工事 ・ 循環水ポンプ周辺の瓦礫撤去等 ・ 3号機原子炉建屋オペフロ遮へい設置
2015年度 (2015.12)	62	16	
2016年度 (2017.2)	27	6.9	
2017年度 (2018.2)	20	4.5	

■ 線量分布 (30mメッシュ：胸元高さ)

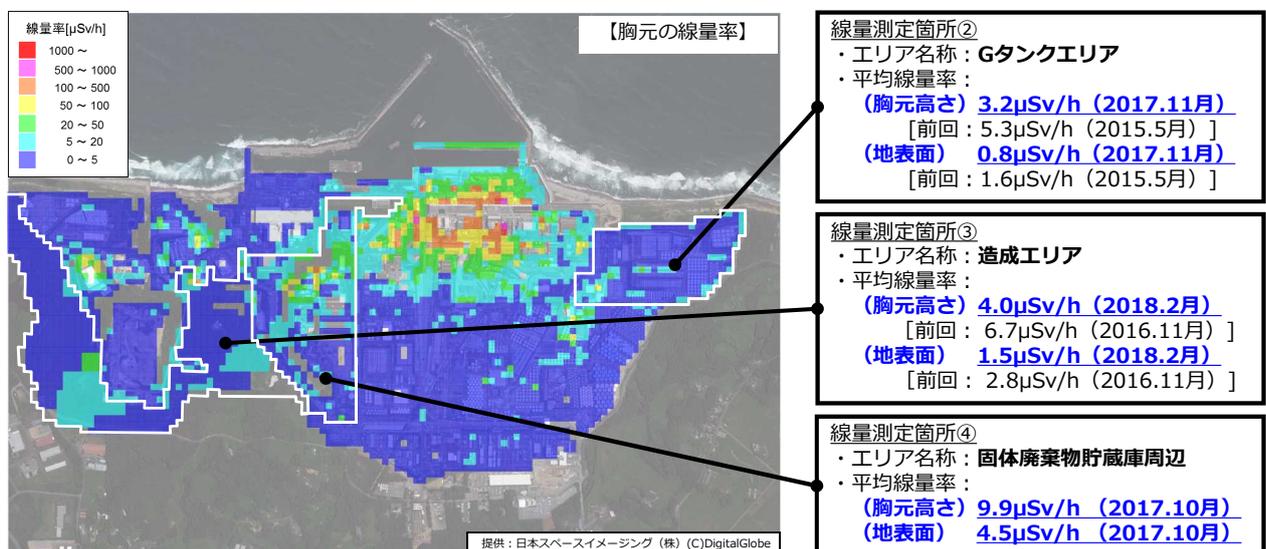


※1 胸元高さ：地表から1.5m高さ

※2 地表面(コリメート)：プラントからの散乱線等の影響がある場所について、線量低減効果を確認するため、地表面(地表面から1cm程度)をコリメートして測定。

3. 1～4号機周辺以外(線量測定箇所②③④)の線量状況及び構内全域の線量分布 **TEPCO**

- Gタンクエリア(線量測定箇所②)は、タンク解体工事等により、前回測定時よりも線量率が下がっている。(胸元高さ：5.3 → 3.2μSv/h)
- 造成エリア(線量測定箇所③)は、廃棄物関連施設の設置に向けた造成工事を行っており、当該工事の進捗により、前回測定時よりも線量率が下がっている。(胸元高さ：6.7 → 4.0μSv/h)
- 固体廃棄物貯蔵庫周辺(線量測定箇所④)は、胸元の高さの線量率が9.9μSv/h、地表面の線量率が4.5μSv/h程度である。



4. 構内主要道路の線量状況 – 構内主要道路の走行サーベイ結果 – **TEPCO**

構内主要道路の線量分布は、年々、低線量側にシフトしている。

＜2015年度 第4四半期＞
(2016.2 測定)



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

＜2016年度 第4四半期＞
(2017.2 測定)



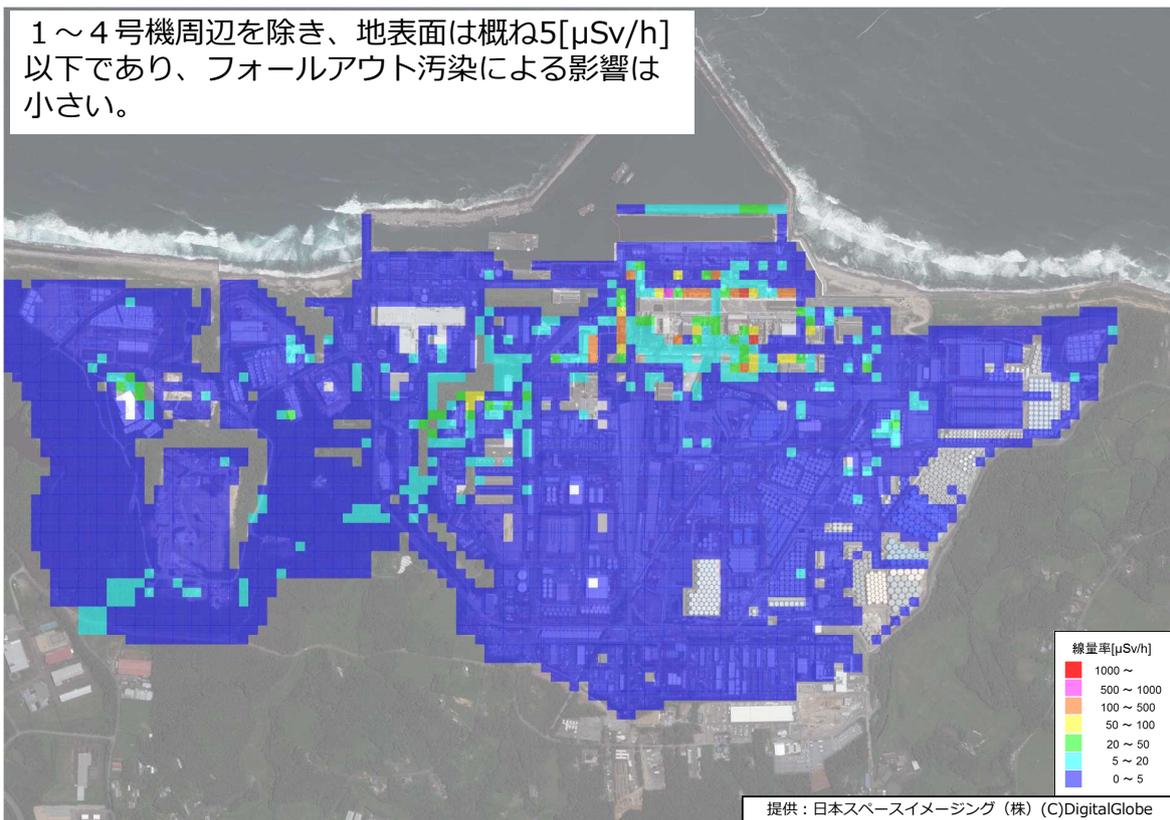
無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

＜2017年度 第4四半期＞
(2018.2 測定)



【参考】 構内全域の線量分布 (地表面[コリメート]、2018年3月) **TEPCO**

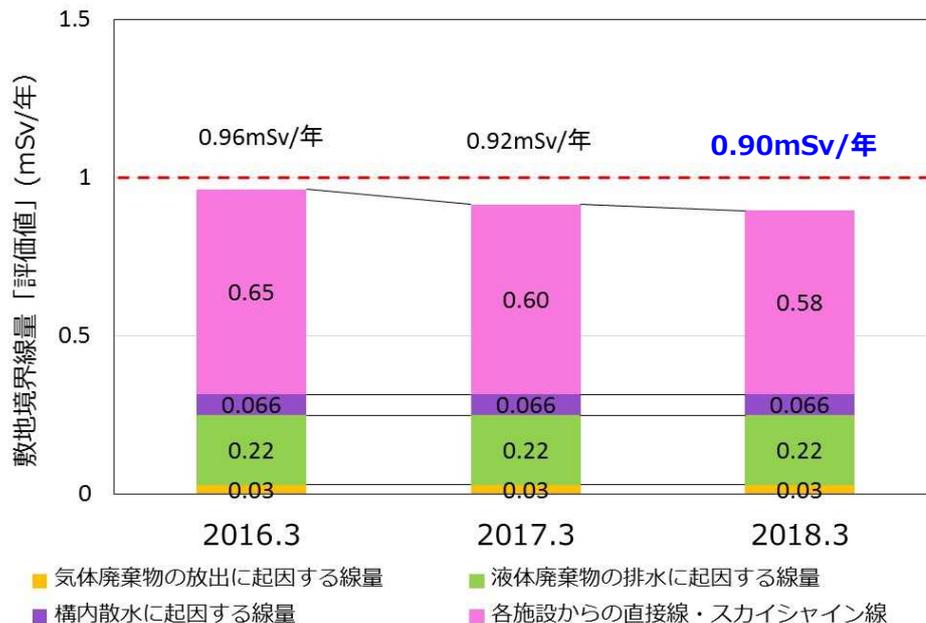
1～4号機周辺を除き、地表面は概ね5[μSv/h]以下であり、フォールアウト汚染による影響は小さい。



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

施設内に保管している発災以降発生した瓦礫類やタンクに貯蔵している汚染水などからの放射線、及び環境へ放出・排水している放射性物質（気体、液体）に起因する敷地境界における実効線量の評価値の推移を示す。



➤ 敷地境界線量（評価値）は2015年度末に1mSv/年未満を達成して以降、1mSv/年未満を維持